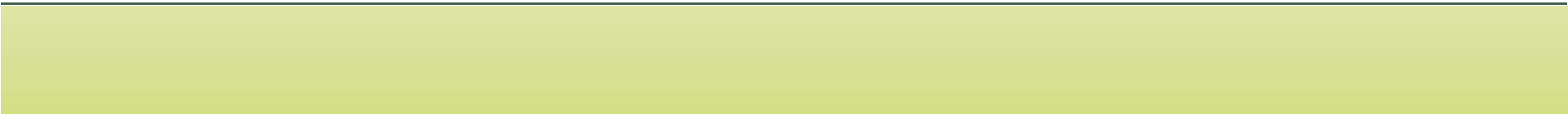


包帯と血圧計カフを使用した 弾性ストッキング代用法における血圧低下予防の検討

医療法人社団スマイル 博愛クリニック

○江草昌美、沖永鉄治、中西曜子、大窪由美子、杉山浩文、迫田夕子、
吉田賢治、藤井恵子、倉脇壮、金井亮、山田有美、頼岡徳在、高杉啓一郎





はじめに

- 糖尿病性腎臓病の増加や患者高齢化に伴い、透析治療中に急激な血圧低下を生じるケースが増加している。透析中に昇圧剤の使用や下肢挙上などを行っている中、弾性ストッキングを使用し血圧低下を予防する報告もある。
- 弾性ストッキング代用法として包帯と血圧計カフを使用し、透析中における血圧低下の予防が可能であるか検討する。



対象

- 血液透析中に頻回に血圧低下を生じる患者10名
- 平均年齢: 69.5 ± 19.3 歳
- 平均透析歴: 104.4 ± 64.2 ヶ月
- 男女比: 4:6
- 原疾患: 糖尿病性腎臓病5名、慢性糸球体腎炎5名



方法

- 開始から30分以内に両下肢を包帯と血圧計カフで巻き、30mmHgで加圧・保持した。
- 血圧を開始から返血まで1時間毎に計測し、透析前血圧を基準に各血圧変化率を算出した。
- Blood Volume計を用いて循環血液量変化率を測定した。
- 上記において包帯と血圧計カフの装着3回、非装着3回を比較した。



包帯と血圧カフの巻き方



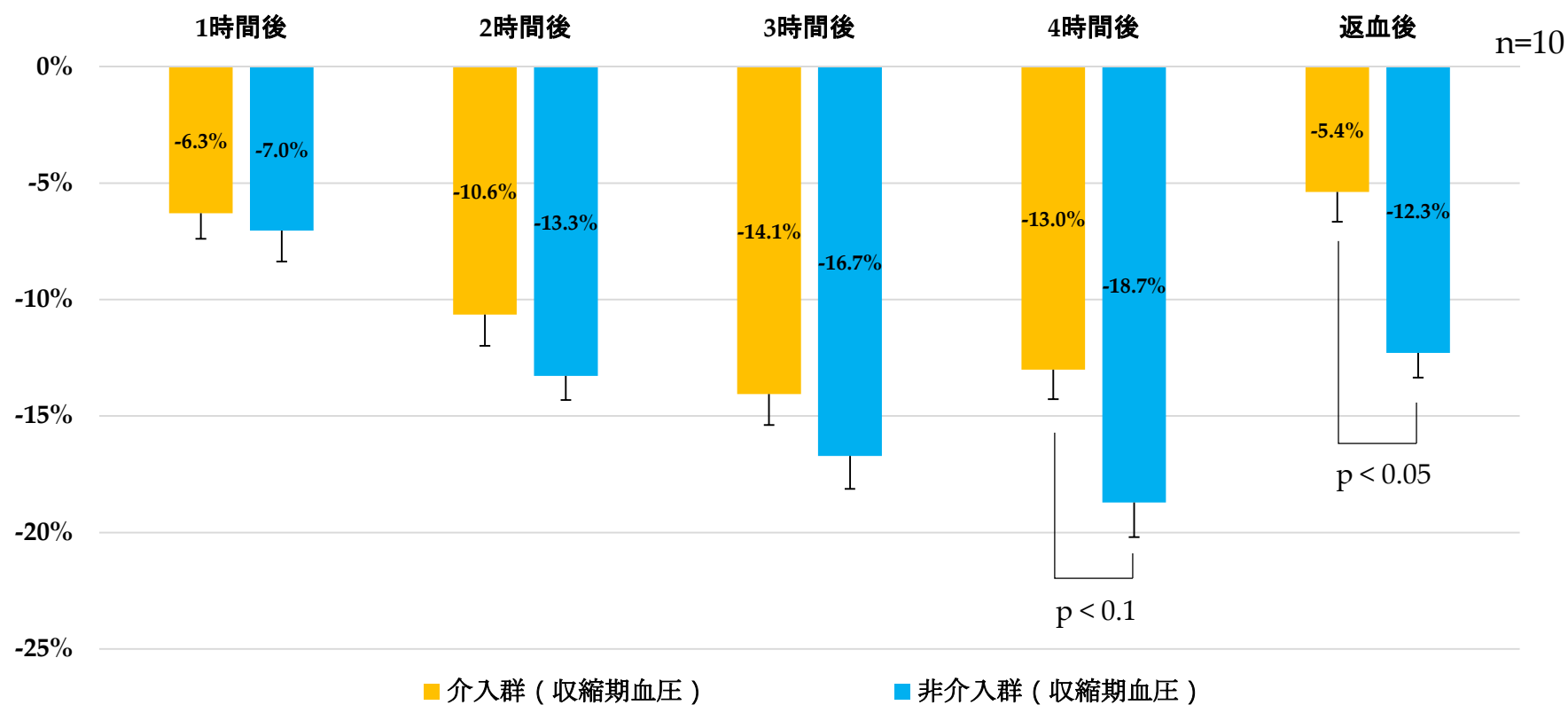


結果 血压变化率

介入群		非介入群		
収縮期血压	拡張期血压		収縮期血压	拡張期血压
-6.3%	2.0%	1時間後	-7.0%	0.6%
-10.6%	-2.0%	2時間後	-13.3%	-2.0%
-14.1%	2.6%	3時間後	-16.7%	-6.8%
-13.0%	1.8%	4時間後	-18.7%	-4.9%
-5.4%	2.2%	返血後	-12.3%	-1.9%



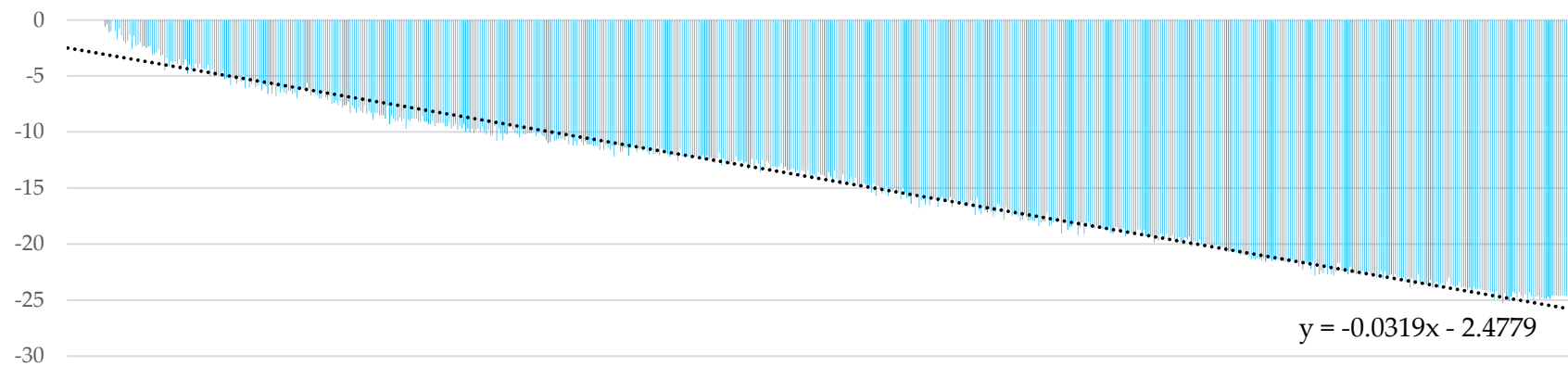
収縮期血圧の変化率



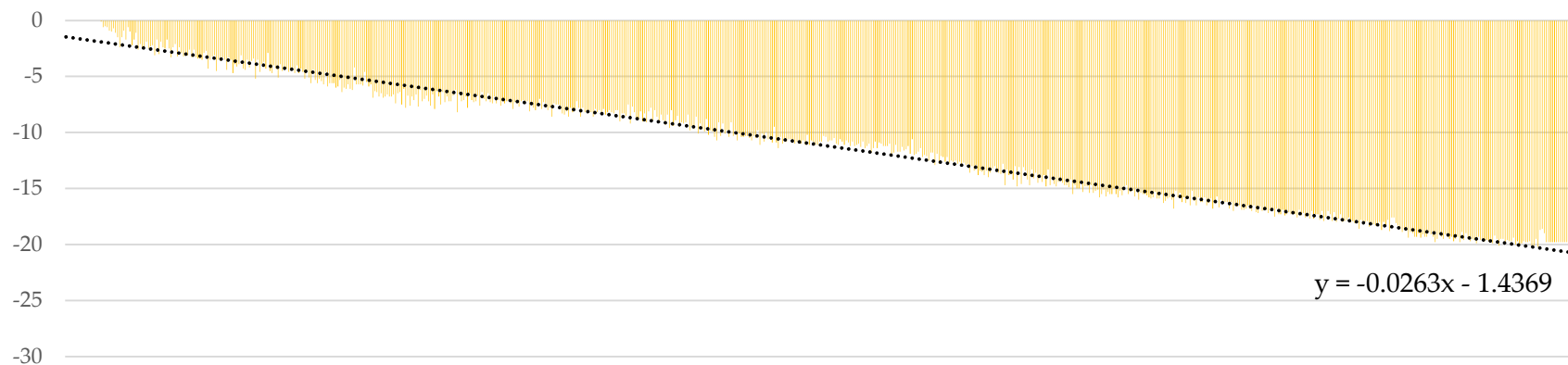


Blood Volume 計における比較 case.1

非介入群 dBV(%)



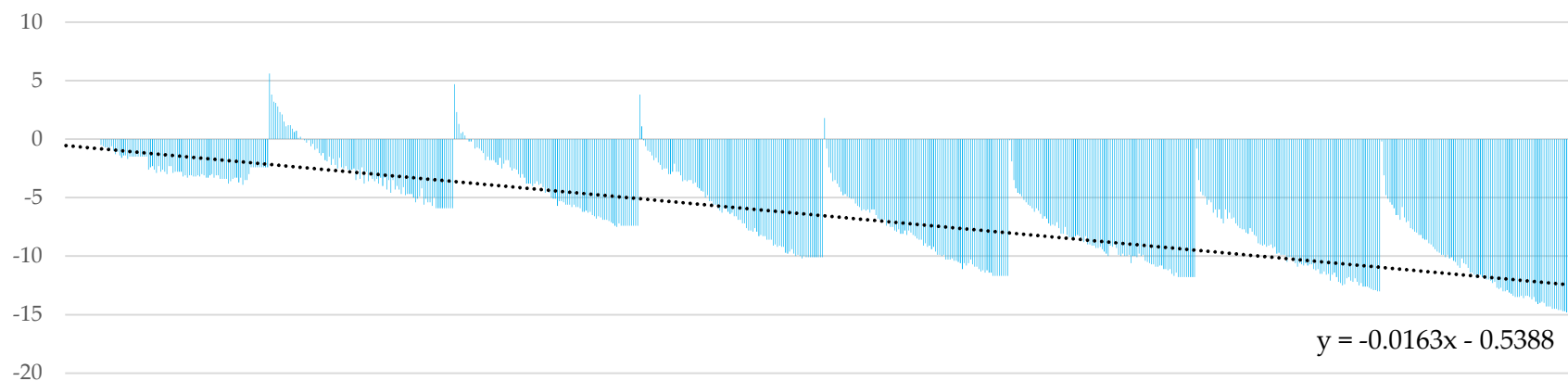
介入群 dBV(%)



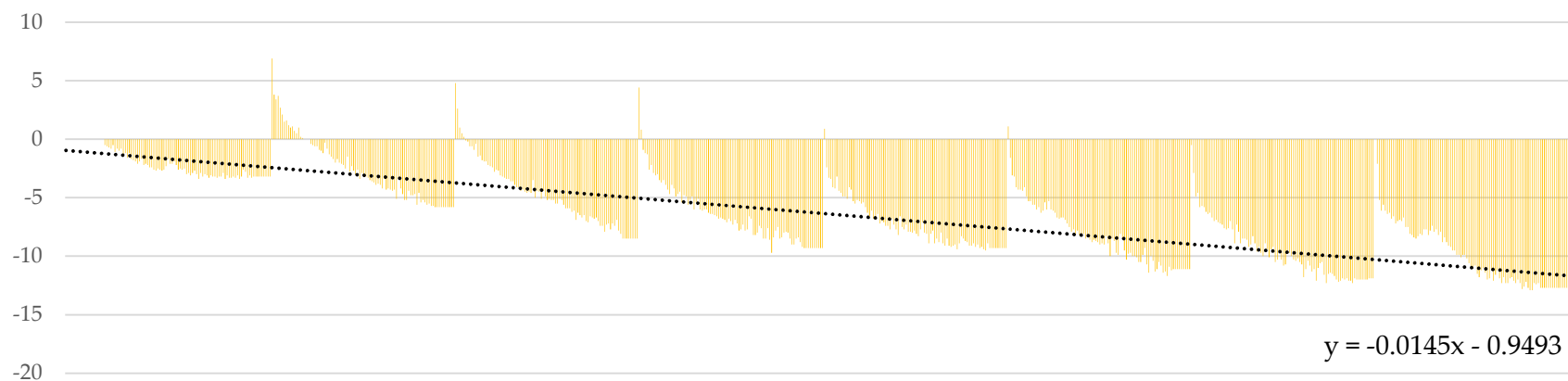


Blood Volume 計における比較 case.2

非介入群 dBV(%)



介入群 dBV(%)





まとめ

- 血圧変化率は開始1時間後から3時間後において、非介入群と介入群で大きな変化は認められなかった。
- 血圧変化率は開始4時間後において、非介入群で $-18.7 \pm 0.16\%$ 、介入群で $-13.0 \pm 0.14\%$ となり改善傾向がみられた。返血後においては、非介入群で $-12.3 \pm 0.11\%$ 、介入群で $-5.4 \pm 0.13\%$ となり有意な改善が得られた。



考察

包帯と血圧計カフを使用した弾性ストッキング代用法は、その場で加圧のコントロールが容易に行えることに加えて、腰痛により十分な下肢挙上が難しい患者、下肢挙上に伴いけいれんを起こしやすい患者、“ストッキング”に抵抗のある患者は導入し易いと考えられる。



結語

- 包帯と血圧計カフを用いた下肢圧迫は透析低血圧症例に対し有効である。
- 今後も、包帯と血圧計カフによる弾性ストッキング代用法を透析低血症の患者に対して予防を試みていく。

**中国腎不全研究会
COI開示**

**筆頭発表者名
江草 昌美**

**演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業などはありません。**